



【令和3年度太宰府中学校がめざす生徒像と重点的な取組】

(1) 「何を学んだのか」「どのように学んだのか」を評価し自己の伸長を実感できる生徒 【学力:てんじん様ロード】		
①「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりのポイントを整理し、実践します。	○ 学習内容「何を学んだのか」が明確な授業を行います。 ○ 学習内容を獲得する上で大切な考え方や表現の仕方等「どのように学んだのか」が明確な授業を行います。 ○ 授業の終わり3分間で、自己の伸長が実感できる振り返り活動を行います。	<継続> <改善・発展> <改善・発展>
②低学力層及び苦手意識が強い生徒への授業における手だての充実を行います。	○ 導入段階に、課題の提示の工夫や既習事項の学び直しを設定し、学習の見通しを持たせます。 ○ 終末段階に振り返り活動を設定し、チェックテストを通して「何を学んだのか」の定着を図ったり、ノートのコメント記入を通して「どのように学んだのか」の重要なポイントを明らかにさせたりしていきます。	<改善・発展> <新規>
③自ら目標を設定し、計画を立て、粘り強く取り組む学習を計画的に位置付けます。	○ 「主体的・対話的で深い学び」にじっくり取り組ませる授業(時間)を、各教科のカリキュラム上に位置付けて、授業実践します。	<新規>
④授業診断を実施し、各先生の授業づくりの良さを共有し、実践します。	○ 各学期に1回、校長・教頭・主幹教諭・研究主任等による授業診断を全教員に対して実施します。授業診断後に結果を伝える協議会を設定します。また、若年教員に対しては日常的に授業診断を行います。 ○ 授業診断を通じた各先生の授業の良さを「Teamださいふ」通信として、全教職員に発信し、共有してもらいます。	<改善・発展> <改善・発展>
(2) 常に相手意識を持ち、自他が快く取り組める「太中プライド」を高める生徒 【心力:思いやりロード】		
①常に目標(ゴール)を意識させ、目標達成への見通しをもたせたり、計画をたてさせたりする場面を設定します。	○ 行事的活動において、生徒に目標(ゴール)を設定させ、その達成に向けた計画・実践・評価に主体的に取り組ませることで、生徒の達成感や成就感を高めていきます。 ○ 全ての教育活動において相手意識の良さや必要性に気付かせるよう評価活動を取り入れます。また、必要に応じて目標達成のための「競争意識」を持たせる場面を設定し、「太中プライド」を育てます。	<新規> <新規>
②日常の教育活動への評価を通して、生徒の相手意識を高めます。	○ 道徳の授業を通して、生徒の他者の思いや感謝の念についての価値を深めさせていきます。 ○ 「鍛えて、ほめる」から「鍛えて、ほめて、認める」評価を行い、多様な見方や考え方に気付かせ、相手意識を高め、「太中プライド」を育てます。	<改善・発展> <新規>
(3) 協働的な取組を通して、「太宰府人」としての自己の存在を実感する生徒 【市民力:チャレンジロード】		
①教育活動の中に、地域の人材活用を進めます。	○ 「ふるさと学習」「街づくり学習」の取組みの中に、GTやアドバイザー、評価者として、地域の人材活用を取り入れま	<改善・発展>
②「ドリカム講座」の内容、方法を見直します。	○ 1回目の講座に、地域の方を講師招聘し「太宰府中生に期待すること」について講演を取り入れます。 ○ 2回目以降の講座は、地域の方を生徒の取組の評価者として活躍してもらいます。	<新規> <新規>
③「地域お助け隊」を新設します。	○ 学校や地域の「お助け隊」としてのボランティア組織を新設します。隊員は、活動の目的・内容・方法によりその都度募集していきます。	<新規>
(4) 信頼される学校づくり		
①コロナ禍、ポスト・コロナの教育を見据え、ICTを活用した教育活動を進めます。	○ ポスト・コロナの教育活動に向けて、通常授業におけるICT活用を推進します。その際、2年間の中期的取組についてロードマップを作成し、全教員で取り組んでいきます。 ○ コロナ禍の継続を踏まえ、生徒が自宅待機になった場合のオンライン授業やオフラインでの家庭学習の在り方について研究推進部ICT活用チームを設置し、万一の場合に備えます。	<新規> <新規>
②不登校生徒の減少を進めます。	○ SCやSSWに加え、「不登校生徒の親の会」等との連携を取り入れ、学校・保護者・地域が協働した支援体制を整備し、不登校生徒の減少に取り組んでいきます。	<改善・発展>
③個別の配慮を要する生徒への支援を学校全体で進めます。	○ 特別支援教育コーディネーターを中心に「ケース会議」を開催し、通常学級に在籍する個別の配慮を要する生徒への支援を担任まかせでなく組織的に検討していきます。 ○ 「ケース会議」は、必要に応じて早急に開催し、特別支援教育コーディネーターは検討内容に照らしてSCやSSWの参加を要請することができますようにします。	<改善・発展> <改善・発展>
④小学校の状況を直接参観し、その結果を共有し、BCSを推進します。	○ 毎学期に1回、各小学校に校長・教頭・主幹教諭・生徒指導主事・研究主任等の中から3・4名程度で各小学校を訪問参観し、その状況を教職員全体で共有します。*小学校からの訪問参観も同様に実施します。	<改善・発展>